

## <委員会設置までのいきさつ>

大腸は腹部を一周する長い管腔臓器であるため、他の臓器に比して、癌が同時性、または異時性に多発する傾向があります。また、HNPCC(遺伝性非ポリポーシス大腸癌)や種々の消化管ポリポーシスのように、多発大腸癌や重複がんが遺伝性・家族性に発生する疾患もあります。このような背景の下、これまでに増して多発大腸癌や多臓器との重複癌の重要性が指摘されてきました。しかし重複癌との関係、そして何よりも従来の大腸癌取扱い規約に多発癌や重複癌の定義、同時性と異時性の定義が、記載されていませんでした。その為、各種の関連学会、これまでの大腸癌研究会で、これらの用語の使い方に混乱があり、統計などとの対応や処理に苦慮したとの問題が提起されました。そこで、これらの用語と定義を明確にする目的で、平成11年の第51回大腸癌研究会において、「大腸多重がん検討委員会」が発足しました。